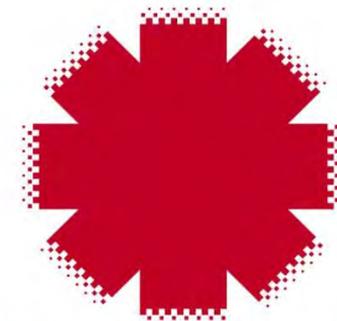


東燃ゼネラル石油株式会社

2012年12月期第1四半期決算概要

2012年5月15日



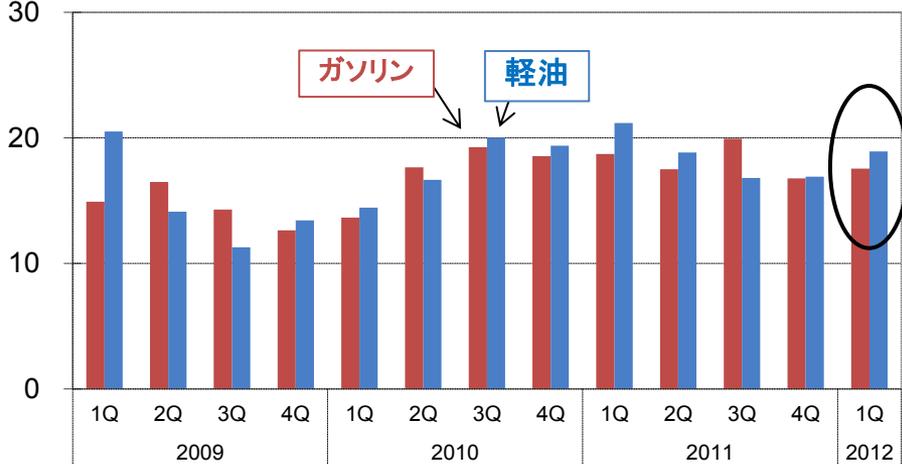
Tonen General

取引の記載・見通しに関する注意事項

この資料に記載されている当社および当社グループ各社の事業に関わる計画、見通しについては、本資料作成時における当社の見通しに基づき記載しておりますが、日本および世界経済の動向、原油および製品価格、円ドルの為替レート、需給の変動に大きく左右される業界の競争状況などにより影響を受けます。これらの影響により、実際の業績は本資料で記載した見通しとは大きく異なる可能性があることにご留意ください。

2012年1-3月期の事業環境

国内石油製品マージンの推移
(卸売価格 - 原油CIF、円/リットル)



石油連盟ならびに石油情報センターのデータに基づいて作成

エチレン価格の対ナフサスプレッドの推移
(米ドル/トン)



ブルームバーグのデータに基づいて作成

石油事業

- 石油製品マージンは2011年10-12月期より改善、前年同期とほぼ同レベル
 - 原油価格の上昇は石油製品価格に転嫁
- 国内石油製品需要は、大震災の影響があった前年同期比で10%の増加
 - ガソリン・中間三品：おもに3月の影響で+2~3%
 - C重油：おもに電力需要で+70%
- 製品輸出マージンは国内製品マージンと同様に堅調に推移

石油化学事業

- 石油化学品需要は、タイの洪水の影響があった2011年10-12月期から回復
- 基礎石油化学品マージンは、オレフィン類、芳香族類ともに堅調
 - エチレンの対ナフサスプレッドは若干の改善

2012年1-3月期のハイライト

- 2011年は予定外の稼働停止が数回あったものの、当期は通常運転に復帰
- 在庫評価益を除いた当期の業績は、本年2月に発表した業績予想のレベルで推移。192億円の在庫評価益は、原油および石油製品価格の上昇によるもの
- 当社ならびに東レ(株)双方にメリットのある、バッテリーセパレーターフィルム合併事業の合意解消
- 2012年12月期の1-6月期および通期の業績予想は、1-3月期に計上した在庫評価益を反映して上方修正。ただし、在庫評価益を除いた実質営業利益は前回発表から変更なし
- 本年6月予定のエクソンモービル有限会社(EMYK)の持分取得、および新生東燃ゼネラルグループの発足に向けて着実な進捗
 - 6月1日以降の新経営陣が移行業務を指揮
 - 強い「エッソ」、「モービル」、「ゼネラル」の各ブランド価値を礎とし、EMYKを「EMGマーケティング合同会社」に商号変更予定
 - 統合効果を最大化するためのスムーズな業務移行
- 6月以降の経営を成功に導くための計画的なプロセスとして、現時点では以下を予定
 - 2012年1-6月期決算発表時： 新生東燃ゼネラルグループのビジョン・経営戦略および2012年通期収益予想
 - 2013年初頭： 中期収益予想ならびに具体的な経営・財務計画

2012年1-3月期決算概要

- 各事業の業績変動を大きく上回る一時的要因
 - 前期の在庫評価方法の変更の影響がなくなったことにより、在庫評価益は対前年同期比で1,540億円の減少
 - バッテリーセパレーターフィルム合併事業解消による164億円の特別利益計上
- これら一時的要因に加え、下記により当期純利益は890億円の減益
 - 石油事業は前年同期とほぼ同水準
 - 石油化学事業は好調であった前年同期を下回る
- EMYKの業績は下表には含まないが、1-3月期の業績は順調に推移

(億円)	'11 1-3月期	'12 1-3月期	増減
売上高	6,681	7,235	553
ー 営業利益	1,911	304	-1,608
経常利益	1,913	297	-1,616
特別損益	-4	164	168
当期純利益	1,135	245	-890
ー 在庫評価益の調整	-1,732	-192	1,540
→ 調整後営業利益	179	112	-68
↳ 石油事業	107	91	-16
石油化学事業	72	21	-51

2012年1-3月期営業利益増減の要因分析

対2011年1-3月期

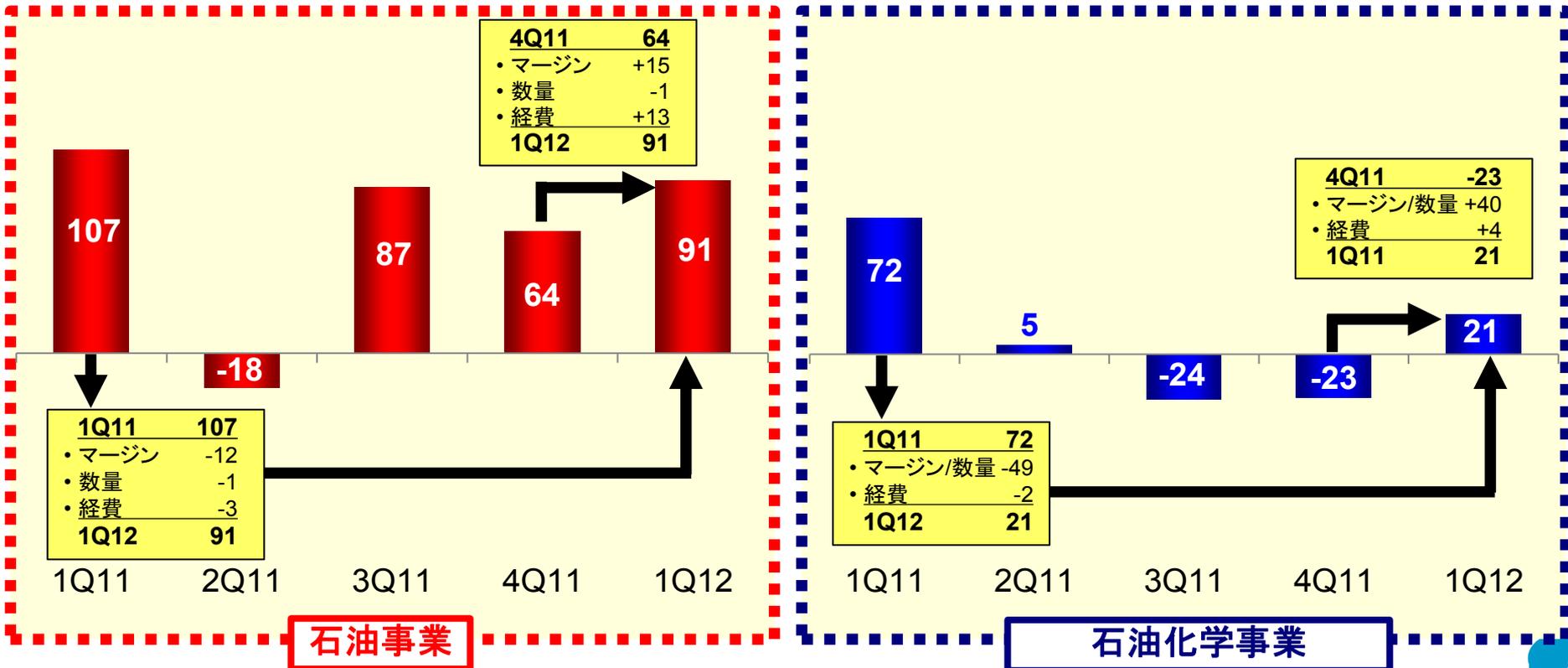
- 石油製品マージンおよび販売数量は前年同期とほぼ同等の水準だが、本年2月に発表した2012年通期業績予想における想定は若干上回る
- 石油化学品マージンはパラキシレンが好調であった前年同期と比較すると減少

対2011年10-12月期

- 石油製品マージンは、需給バランスの適正化により改善
- 石油化学品マージンは、タイの洪水の影響で需要の減退した2011年10-12月期と比較すると改善

調整後営業利益の四半期比較(2011年1-3月期～2012年1-3月期)

(億円)



販売数量



TonenGeneral

- 他の中間留分と比べてマージンが好調だった灯油の販売に注力
- 川崎工場での大規模定期修理(本年4-6月期)に備え、ガソリン販売数量を抑制
- 芳香族類は和歌山工場で定期修理があった前年同期比で増加

石油製品*

(千KL)

	'11 1-3月期	'12 1-3月期	増減	国内全体**** 増減	
日本国内での販売	ガソリン	2,501	2,459	-1.7%	+2.3%
	灯油	938	1,083	+15.4%	+3.0%
	軽油	743	740	-0.4%	+3.0%
	A重油	553	524	-5.3%	+1.6%
	C重油	398	417	+4.6%	+72.9%
	主要5油種合計	5,134	5,222	+1.7%	+10.3%
	LPG・ジェット燃料・その他	881	720	-18.3%	
	小計	6,014	5,941	-1.2%	
	輸出**	830	788	-5.1%	
	その他***	742	787	+6.1%	
石油製品合計	7,586	7,516	-0.9%		

注記:
* バーターを除く
** 保税販売を除く
*** 潤滑油、原油、国内のエクソンモービルグループ内の転送取引などを含む
**** 出典: 経済産業省「資源エネルギー統計」

設備稼働率(常圧蒸留装置ベース) 73% 76%

石油化学製品

(千トン)

オレフィン類その他	411	405	-1.5%
芳香族類	143	167	+16.9%
特殊化学品	53	50	-5.8%
石油化学製品合計	607	622	+2.5%

2012年連結業績予想

- 売上高は上方修正。本年4月の原油および製品の価格水準が2012年末まで続くと想定
- 営業利益は190億円上方修正。2012年1-3月期に計上した在庫評価益を反映
 - ▶ 在庫評価益を除いた石油および石油化学事業の営業利益は2月予想から変更なし
- EMYKを含む新生東燃ゼネラルグループの2012年業績予想は、本年1-6月期決算発表時に開示予定
- 2011年と同様の1株当たり38円の配当予想は変更なし

(億円)	実績 '12 1-3月期	業績予想(今回発表)*		2月発表比増減	
		1-6月期	'12通期	1-6月期	'12通期
売上高	7,235	14,000	29,000	1,000	2,000
営業利益	304	360	550	190	190
経常利益	297	350	550	170	180
特別損益	164	160	160	-	-
当期純利益	245	280	400	100	100
在庫評価益の調整	-192	-190	-190	-190	-190
調整後営業利益	112	170	360	} 変更なし	
石油事業	91	140	300		
石油化学事業	21	30	60		

* 2012年4月平均ドバイ原油価格117ドル/バレル、為替82円/ドルを前提に算出。また、本予想にはEMYK取得の影響を含まない

キャッシュ・フロー、D/Eレシオ



(億円)

フリー・キャッシュ・フロー*

'12 1-3月期

-44

税引前純利益**	297
BSF合弁事業解消によるキャッシュ・フロー	231
減価償却費/(固定資産の取得)	31
在庫評価方法変更に伴う税金支払	-108
その他	-495

財務活動によるキャッシュ・フロー

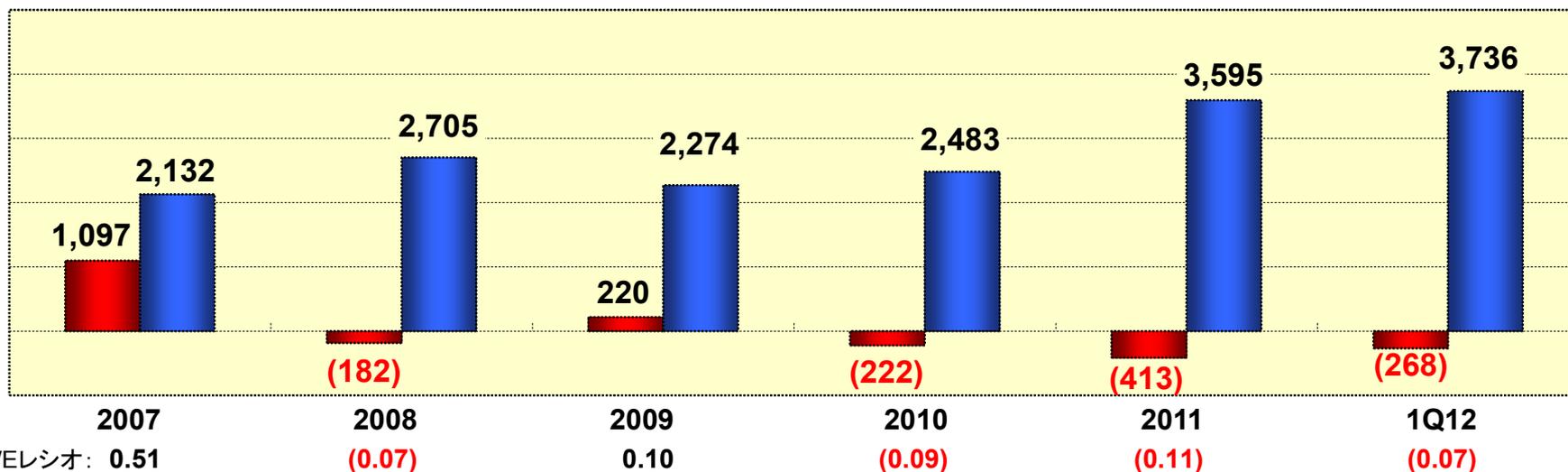
44

ネット借入金の増加など	145
配当金の支払	-101

- 好調な業績を反映し、純資産は引き続き増加
 - 本年3月末における東燃ゼネラル石油(株)単体の分配可能額相当額は3,230億円
- 強固な財務体質により、予定されているEMYK持分取得は問題なし
- 取締役会は安定配当を財務上の優先事項と認識

(億円)

期末のネット借入および純資産(2007年-2012年1-3月期)



ネット借入***

純資産****

- * 営業および投資活動によるキャッシュ・フローの合計
- ** BSF合弁事業解消に伴う特別利益を除く
- *** 現預金・貸付金等を差し引いた借入金
- **** 少数株主持分を除く純資産

參考資料

2012年連結業績予想の変動要因とその影響額

□ 今回の業績予想の前提

主な項目	単位	前提	注記
ドバイ原油価格(FOB)	米ドル / バレル	117	2012年4月平均
為替レート	円 / 米ドル	82	2012年4月平均

上記前提は、売上高および在庫評価損益の計算に使用

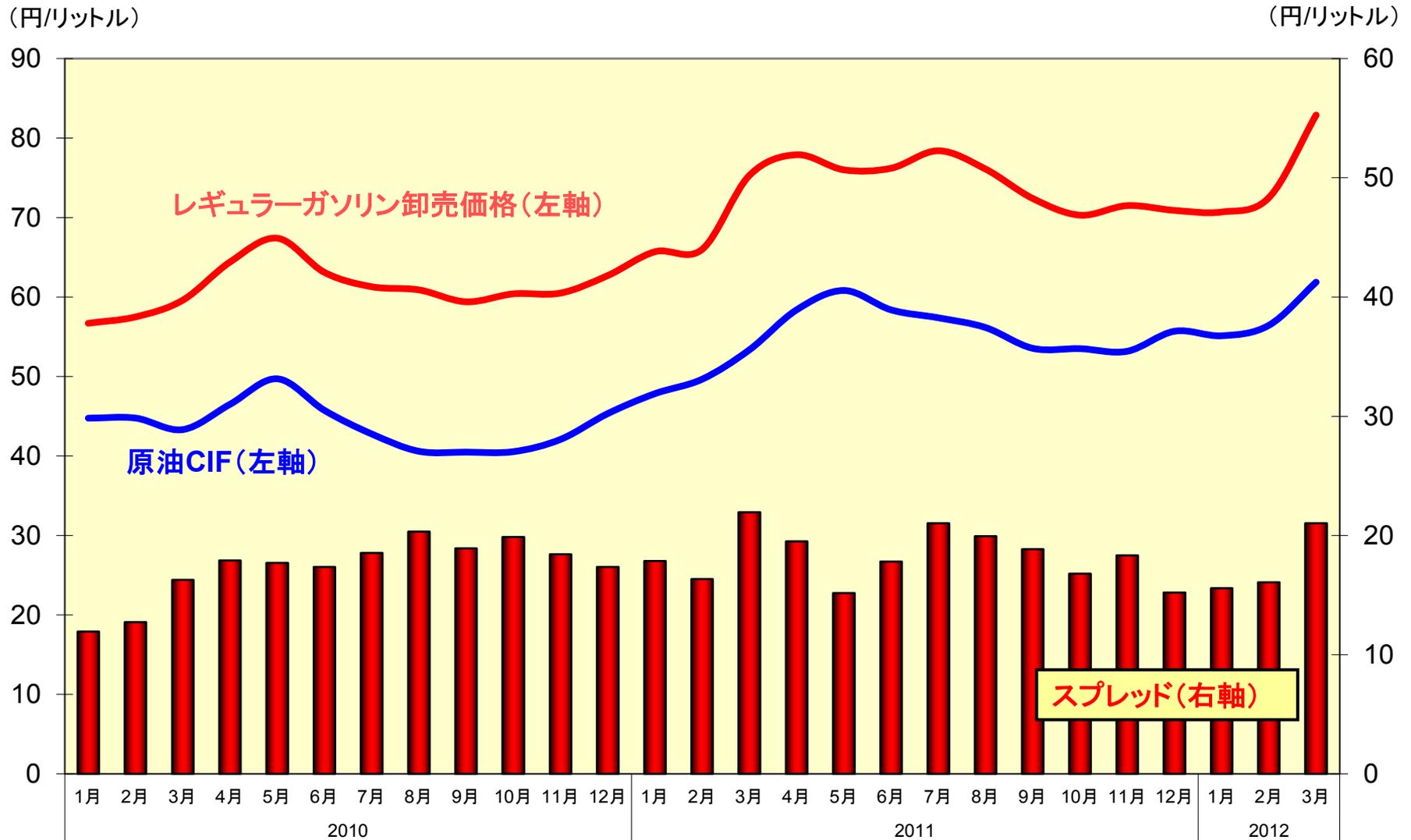
□ 前提の変化に伴う営業利益への影響額(年間換算)

主な項目	単位	上昇幅	年間換算影響額(億円)
ドバイ原油価格(FOB)	米ドル / バレル	10	180*1
為替レート	円 / 米ドル	10	- 260*1
石油精製マージン	円 / リットル	1	300*2

*1 在庫評価損益の影響のみ。原油価格変動のタイミングや在庫数量によっては異なる結果となりうる

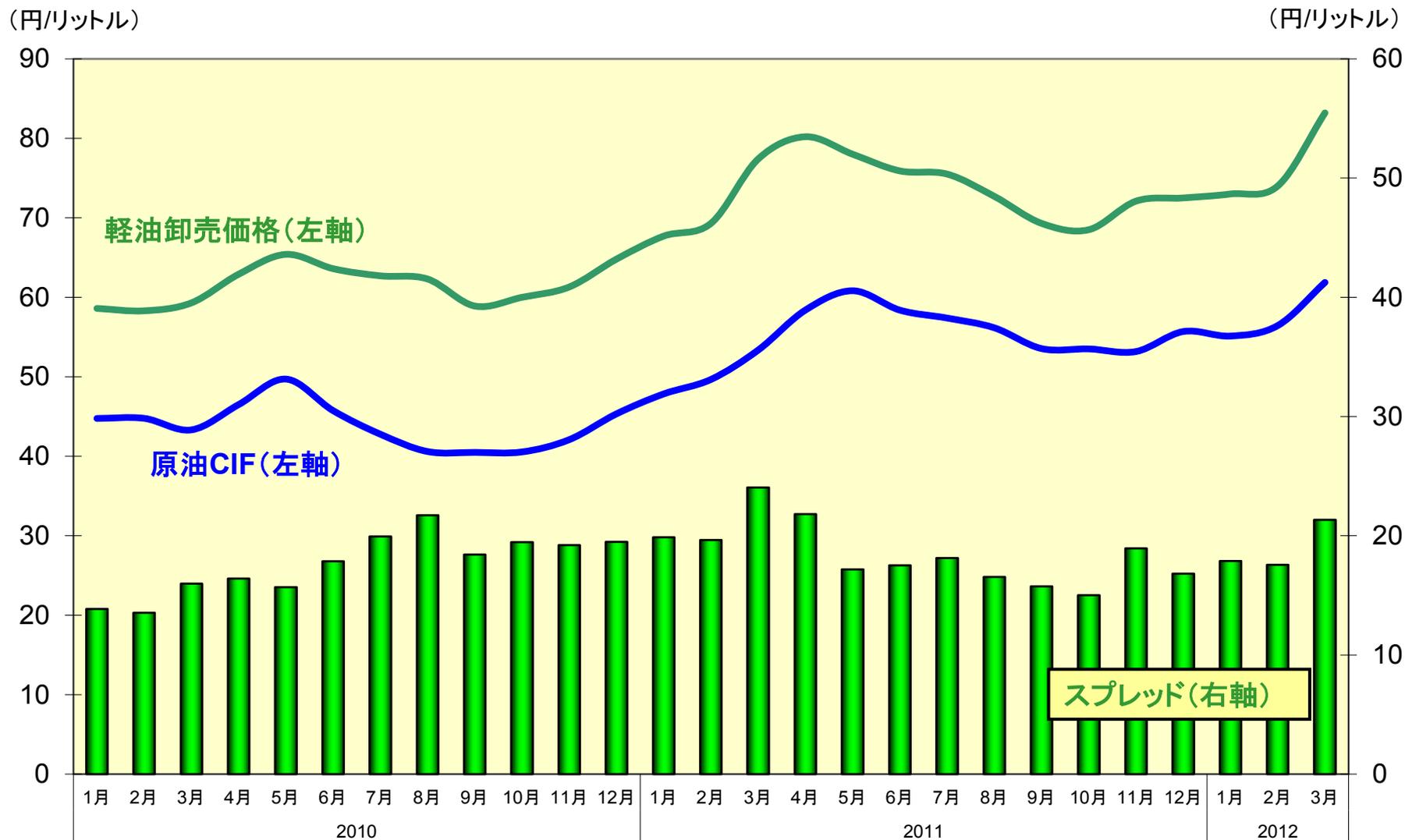
*2 営業利益への年間影響額は10億円単位の概算であり、販売数量の増減によっては異なる結果となりうる

価格スプレッド (ガソリン卸売価格 - 原油CIF)



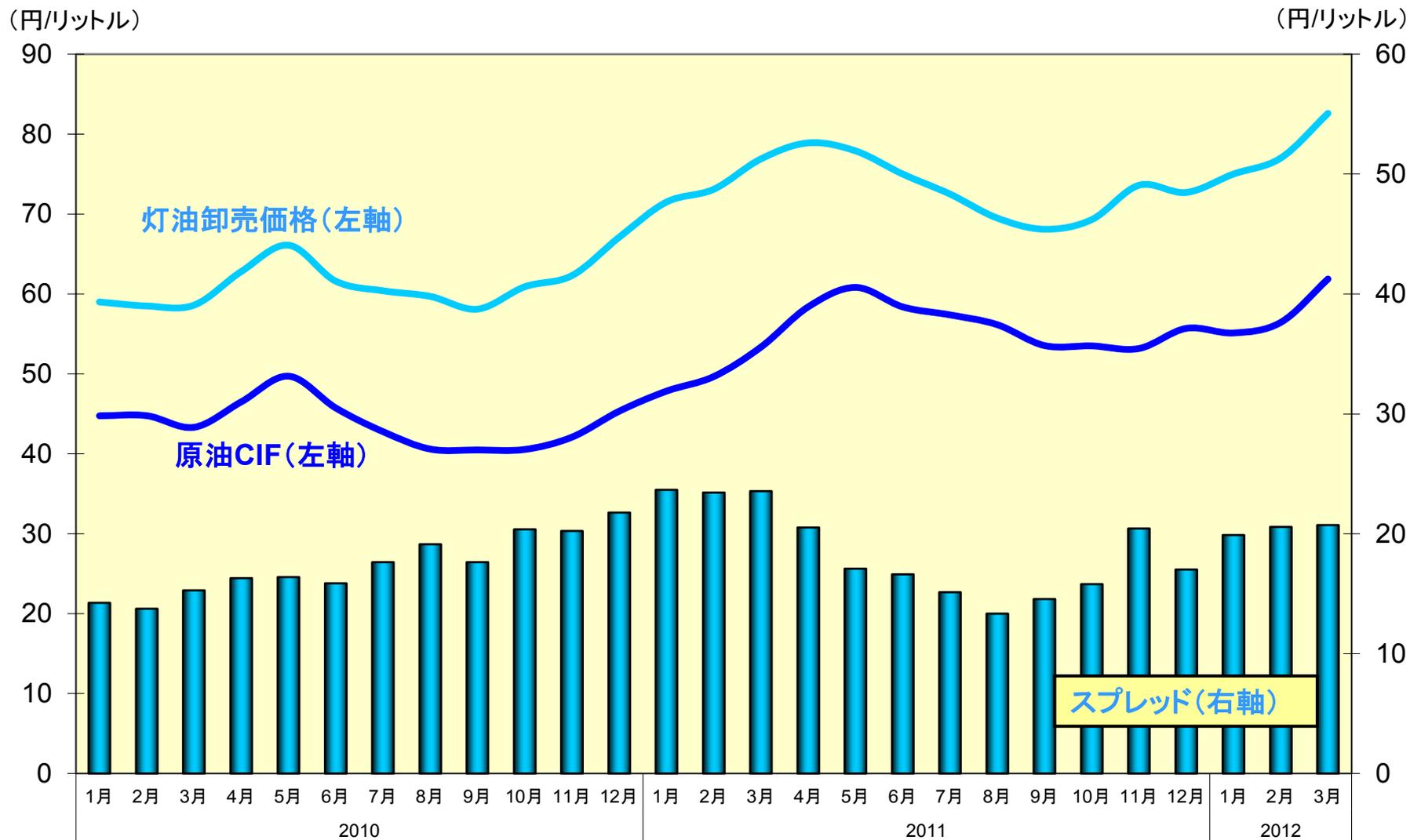
注: 石油連盟ならびに石油情報センターのデータに基づいて作成

価格スプレッド（軽油卸売価格 – 原油CIF）



注：石油連盟ならびに石油情報センターのデータに基づいて作成

価格スプレッド (灯油卸売価格 – 原油CIF)



注: 石油連盟ならびに石油情報センターのデータに基づいて作成

営業利益の詳細（2010年～2012年1-3月期）

2012年

(単位: 億円)

営業利益内訳	'12 1-3月期	'12 4-6月期	'12 7-9月期	'12 10-12月期	'12 通期	'12 1-6月期	'12 1-9月期
石油部門 (実質)	91						
石油化学部門 (実質)	21						
在庫関連損益	192						
総合計	304						

2011年

営業利益内訳	'11 1-3月期	'11 4-6月期	'11 7-9月期	'11 10-12月期	'11 通期	'11 1-6月期	'11 1-9月期
石油部門 (実質)	107	-18	87	64	241	89	177
石油化学部門 (実質)	72	5	-24	-23	30	77	53
在庫関連損益	1,732	280	-122	1	1,891	2,012	1,890
総合計	1,911	267	-59	42	2,162	2,178	2,120

2010年

営業利益内訳	'10 1-3月期	'10 4-6月期	'10 7-9月期	'10 10-12月期	'10 通期	'10 1-6月期	'10 1-9月期
石油部門 (実質)	-48	23	241	181	397	-25	217
石油化学部門	64	13	-55	-3	20	78	23
在庫関連損益	187	-94	40	-135	-2	93	133
原油コスト認識時点の差による影響	-20	10	50	-120	-80	-10	40
総合計	184	-47	276	-77	335	136	412